

# 「さあ」 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

## 新体制で発進

# 共感コミュニケーションで再出発

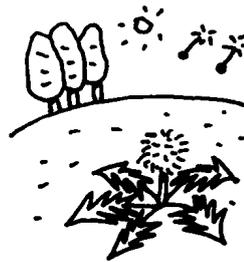
1 月 29 日、まちネット寄居の総会を開催しました。出席 7 名、委任状 14 名。

活動の基本方針は、「生活の中から声をあげ、解決に向けた活動にとり組んでいく」こと。今年も、●できるだけ分かりやすく、多くの人が係われる活動を目指していきます。●議会をできる限り傍聴し、町政の動向と議会運営にも注視していきます。●ダンボールコンポストの普及にも積極的に取り組み、焼却生ゴミ減量化の一手段として町に提言できるよう準備をしていきます。●町長や議員との直接対話の場を設け、具体的な提言や住民ニーズを的確に伝えられるよう、日頃の活動を工夫していきます。

なお、前期重点項目とした町議選への積極的な関わりについては、4 ページに掲載しました。

★皆さんも、難しく考えずに、意見や疑問をどしどしお寄せくださいね。

★活動費の収入源については、書き損じハガキや未使用切手の提供を呼びかけようとの意見がありました。ご協力いただければ幸いです。



ところで、今総会を経て、不肖篠原由実子が大北秀子さんより代表を引き継ぐことになりました。大北さんのようにはとても務まりそうもありませんが、“普段の暮らしが町政の入り口でもあり出口なのだ”という考えのもとに、背伸びせず等身大で活動していきたいと思っています。暮らしやすい町の有り様を皆さんと一緒に考え、声を出していけるよう微力ながら努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、大北さんには、これまで同様主力メンバーとして副代表を、運営委員は、関川和博さん・吉澤和美さん、会計は矢島京子さん・清水清子さん、会計監査を遠藤明子さんが引き受けてくださいました。

ホームページは大北久勝さんに引き続きお願いしますが、ご意見メールも受け付けていますので、ぜひぜひアクセスしてください。

まちネット寄居は、会員の生の声が原動力です！ どうぞよろしくお願い致します。

新代表 篠原由実子

ネットのホームページのぞいてる？  
ご意見 いっぱい聞かせてください  
「まちネット寄居」で検索してね～





■2010年12月議会

## 前町長の退職金の行方

2010年が遠い過去となってしまったような感覚だ。12月11日の一般質問は9人が登壇。年々質問者が増加の傾向で議会にも少しずつ変化が出てきていると感じる。12月議会を報告する議会便りがすでに発行されているので、全容はそちらで。気になったことは、某町民から「寄居駅南地区沿道区画整備事業」の早期実現のための寄付金1060万円の申し出があり、町側は特定の事業の推進を目的とした寄付を保留している。それに対して採納願いが出されている。この取り扱いに対しての質問である。この整備事業は、新町長が昨年就任後に再検証するとしている。議会便りからはほとんど見えないのだが、前町長からの申し出ということだ。町長の答弁では、「寄付者の意思を再度確認していく」としていた。前町長の4年前の町長選挙の際、公約として退職金は返上という項目があったことを多くの町民は憶えていると思う。その退職金が今回の寄付という形になったと聞く。しかしこれで退職金の有効活用がなされるのか。公約の履行とするなら、このような形には強い憤りを感じる。このままやむやになってしまうこともありえる。2011年3月議会では、いまだ平行線という。今後の動きを注視したい。

■2011年3月議会

## 男女共同参画の推進を

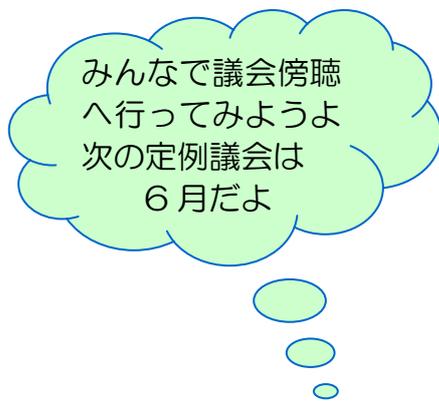
一般質問者6名。都合でわずかな時間しか傍聴できなかったが、驚いたのは傍聴席の空席を探すほど席が埋まっていたことだ。嬉しい光景だ。質問と回答は淡々と進みもっと突込みが欲しいと思ったりしながら聞く。そのなかで「男女共同参画」の取り組みについての質問。「地域の区長、三役をはじめとする地域役員および女性職員の管理職登用を積極的に推進すべきと考えるが町の姿勢は?」に対し、担当職員からは「地域でそのような動きが出てきて醸成されてくれば自然とそのような形になっていくと考えます」の返答。予想はしていたものの、あいもかわらず、形だけの、かけ声だけの共同参画の実態をさらけ出す。

まずは積極的に公的な所からモデルケースとして、政策として女性の登用を促し、共同参画を進める姿勢がなければ、いつまでたっても進まない。寄居町の行政区長の制度そのものの問題は別として女性区長を始め三役でも女性の就任は聞いたことがない。女性であればだれでも良いなどとは思わないが、力のある女性たちは地域にたくさん存在する。もっともっと地域内で、町職員内でも女性の管理職や活躍の場の広がり強く望まれる。

この1~2年の議会便りがとてもわかりやすくなってきた。今までにない議会用語の解説や、各町議の審議案への賛否の内訳表など今までにない視点が入ってきていることなど、とても改善されてきている。

2R請願  
全会一致で採択

件名「容器包装リサイクル法を見直し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書を国に提出してください」(請願者:生活クラブ生協寄居支部、紹介議員:室岡、坂本、岡本議員)は、全会一致で採択されました。今回は事前に男衾コミセンにて請願の事前説明会を全議員対象に開催(5名参加)。ネットでも署名集めなど全面的に協力しました。現行の容器包装リサイクル法は私たちの税金である自治体の負担があまりにも大きくこの見直しは制定当初より指摘されてきました改正の趣旨である、生産者責任の拡大を全国ネットワークを結成して進めてきました。まずはごみ減量、再使用、リサイクルを進め循環型社会をめざす、持続可能な社会は今後も真剣に向き合わなければならない課題です。



# 一般質問!

2009年3月議会より、一般質問を表にまとめてみた。

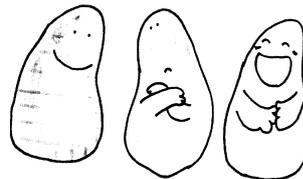
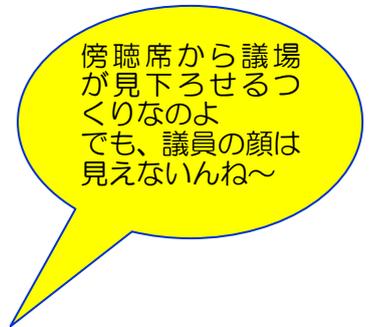
各議員の登壇回数と内容が分かりやすいようにという狙いで、2年間が経過。この間分野別の整理で各議員の問題意識など見えてきた。特記できることは質問者の増加が著しいことだ。これは大いに評価できること。が、内容的には的はずれ、主旨がわかりづらく「なんでも聞けばいいってもんじゃないよね」「各議員の突出した分野を生かした質問が、もっともっとあればよいのに」といった声も。この部分をもっと伝えられればよかったと感じている。

やっぱりみんな 議会傍聴へ行こうよ!

## ◆12月寄居町議会一般質問概要 (質問順)

	佐野千賀子	佐藤理美	岡本安明	大平久幸	松本勇	田母神節子	押田秀夫
福祉・健康・育児							
教育・学校	小・中の食物アレルギー対策						
環境							
観光・産業・地域経済					寄居駅南口区画整理事業		
道路・交通・水道		交通弱者の交通手段確保		水道管改修・駅舎整備・道路残地			
救急・防災・防犯							
交流・市民活動・自治・人権		本会議場の有効活用	施設使用料無料化				
上記以外の生活と暮らし					図書館利用状況等		
行政・政策・議会	10月の職員人事異動		すぐやる課の設置	庁舎の有効活用		公務員労働・公共事業のあり方	個人住民税納付率の現状と方策
その他					深谷市バスポートセンター反対理由は	非核平和都市宣言の町25周年関連	

	稲山良文	石井康二
福祉・健康・育児		
教育・学校		
環境		
観光・産業・地域経済		
道路・交通・水道		
救急・防災・防犯		
交流・市民活動・自治・人権		
上記以外の生活と暮らし		
行政・政策・議会	庁舎町有地有効活用・すぐやる課・総合特区制度	10月職員人事異動関連
その他	旧熊谷保健所寄居分室の取り扱い	公共事業入札事業者指名関連



## ◆3月寄居町議会一般質問概要 (質問順)

	大平久幸	佐藤理美	佐野千賀子	本間登志子	田母神節子	石井康二	稲山良文
福祉・健康・育児		大腸がん検診受診率向上策	食育推進を		国民健康保険税引き下げを		かんぼの宿入浴料助成
教育・学校		小学生の社会科見学に資源循環工場を	小中英語教育推進			教育サポートセンター・ひとづくりと身体づくり	
環境	資源循環工場第II期事業関連						明神川河川改修事業
観光・産業・地域経済	新たな観光振興策		自給率向上・営農推進	寄居駅南口区画整理事業		観光資源・観光再生調査	農産物加工施設・資源循環工場企業誘致
道路・交通・水道					水道基本料金		高齢者福祉タクシー・デマンド交通
救急・防災・防犯						防災行政無線・常備消防署	
交流・市民活動・自治・人権			男女共同参画推進		公共施設使用料免除範囲の拡大		
上記以外の生活と暮らし				市街地の選挙投票場所			
行政・政策・議会			新採用職員研修				
その他							

## 開かれた議会で

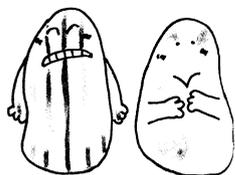
# なぜ傍聴ができないの？

3月議会の総務経済常任委員会の傍聴を申し込むが、許可されず。常任委員会の傍聴はこれで3回も拒否されたことになる。それでも町議会の予定表には「委員会については、委員長の許可があれば傍聴できます」と書かれている。

2009年12月、まちネットでは町議会へ以下の要望書を提出。「議会内の各委員会を委員長の許可がなくても、一般町民に傍聴、公開できるようにしてください。」その回答は、「委員会の傍聴につきましては、寄居町委員会条例に基づき委員長の許可を受けた方に傍聴を認めておりますことから、当面は現在の対応を継続することとします。」であった。しかし、実際に委員長に傍聴申込みを入れても、「前例がない」といった理由で拒否されている。

今回も「前回は認めていないので」という返答。ではどのようなときに認められるのか、全く示されていない。誰のための議会なのか、私たちの代表としての議員の役割は何なのか。3回の申し込みに対する拒否理由の正当性はない。傍聴させられない理由が他にあるのか。不信感は募る。今後も常任委員会の傍聴を求める声をあげ続けていくしかない。

報告 大北秀子



## 男衾地域

初めてのタウンミーティング。「男衾コミュニティセンター会場」に参加し感じた点を整理、報告です。

1 点は、町と町民が直接意見を交換できる機会だったが、参加者が少ない。男衾会場に見る限り、転入者が多く、地元の人に比べ、転入者の関心の高さが際立っていた。2 点目は、島田町長の対応姿勢。提案者の声を的確に把握し、分かりやすく答える姿に好感が持てた。これまでの町長の対応姿勢とは対照的。それと、町側のスタッフに若い職員がいなかった。管理者ではない感受性の豊かな若い職員こそ対合う価値があると思うのだが。3 点目としては、参加者よりも開催者側が多い会場もあった。参加したくなるもう一工夫の必要を痛感。いろいろな発言が活発に行なわれた当会場だった。その中で、若い子育て真っ最中世代の女性が注目された。

## タウンミーティング報告

### 用土・桜沢地域

都心から遊びに来るには好位置にある寄居町。磨けば輝く観光資源もあるのに、3路線もの鉄道と高速道路や国道の恩恵を活かしきれずにいるのは残念であり、もったいない。私が参加したのは、用土・桜沢地域の2/2桜沢コミセン会場。住民は、私を含めてたったの3名！確か定員は、40名だったはず。ちなみに、聞き取り側は、町長ほか計6名。始めにコンサルタントから、地域ごとの特色を活かして寄居町全体の観光振興を図る案が示された。これに対し、住民の意見は、○一度に町全体を観光地化するのは難しい○1~2カ所でも興味が湧けば訪れるもの○ハイキングコースの充実○寄居の自然と同時に農産・酪農品も活かす

大阪から農業を志し、その意思が通じ合う伴侶を得て、男衾地域に暮らす。有機農業を進めるが、現状は厳しく(理解不足と価格競争)その悩みと改善や提案が、実に明瞭に語られた。自分の立ち位置が明確で、自分の言葉で、実情とその課題や悩み、そして提案が簡素に語られた。

この種のイベントは、地域のボス的存在の年寄りが、自論の展開に終始しがちだが、そんな声を押しやってしまう町への進言だった。町長も返答し、会場に拍手が起きていた。町民から聞き取った声が、どんな形に活かされるのか、観光振興政策が具体化するプロセスにも町民が参加できる透明性を強く感じた。こうしたミーティングに参加した者の中から施策づくりも参画できる流れを示すと、ミーティング参加の動機づけは強まるのでは。

(H・O)

○ホンダ工場の見学者やビジネスマンにも歩いてもらおう○癒しの町づくり○子ども・高齢者・障がいのある人にも楽しんでもらえる工夫を○清潔なトイレ○土産物の開発○ハイカーグッズの販売・・・等であった。この会場では、健康づくり、人に優しい癒しの町というイメージを売りにしようという意見にまとまった。この路線で行けば、住民の健康づくりの促進にもつながる。住民が喜び、楽しめるものを観光客にも味わってもらおうという考え方でいいのではないかと。始めは小銭稼ぎだとしても、外貨獲得の足がかりになると思うのだが。

(Y・S)



# 大震災に思う

3月11日の地震と津波・原発事故は、日本中、世界中が驚愕する未曾有の大災害となってしまいました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

## かわせみ荘で避難者受け入れ

寄居町でも、3月17日より福島県からの避難者を受け入れ、最大で18名が、かわせみ荘で10日間ほどの避難生活を送られました。その皆さんは、身体が休まるにつれ、戻って地域の人たちと行動を共にしたいという思いが強まり、27日までに全員が帰られたとのこと。「寄居町にお世話になったお陰で、震災直後の恐怖と疲れを十分癒せました。」と感謝の言葉を残し戻って行かれたそうです。

実は、この受け入れにスピーディーな対応をしたのは、社会福祉協議会（社協）でした。寄居町社協の会長は、町長ですから、町に話が通りやすかったといえればそれまでですが、実際には、役場担当課や県との調整なども必要で、半日という時間で正式な受け入れのゴーサインが取れたというのは、快挙だと言えるでしょう。一般的に行政というものは、なかなか小回りが利かないものです。群馬県片品村の村長の英断までには、遠く及ばないものの、寄居町も捨てたものではありませんでした。（もちろん、片品村村長には村民に理解を得られるという確信があつての決断だったに違いありません。）

ところで、地震直後、近所の高齢者ひとり暮らし宅を中心に回ったところ、食器が割れたり、屋根瓦が崩れた家も数軒ありました。けが人はなかったのですが、けが人ができることを想定すれば隣組単位などごく近所同士の安否確認が

必要だと感じました。また、防災無線ではじめて計画停電の放送があった際、高齢者世帯に電話確認したところ、数名が放送に気づかなかったか聞き取れなかったと言うのです。危機管理の観点からも、地域コミュニティの重要性を改めて感じている今日この頃です。

(Y・S)

## 避難所の幼い 子どもの眼差しから

友人の安否が確認され、知人の親族やご兄弟が、かろうじて津波から逃げ、無事に避難生活を送っていることが分かり始めると、3月11日の異常な気持ちが徐々に和らいでいく。その反対に深刻さを増す原発の動向が、私たちの暮らしにのしかかる。そんな中で、被災地からの映像の中の子どもの眼差しが焼きついている。避難の体育館で笑顔を見せる幼児たちや児童たちや、少年・少女たちに、この先、どんな復興を見せてあげられるのだろうか。

私たち責任ある立場にいる大人たちは、これからの子どもたちに何を引き継いでもらいたいのか。未曾有の巨大災害と連呼するメディアや研究者や専門化家たちの未曾有の無責任振りが、子どもたちへ押し寄せている、と私には写る。復興の大合唱は、過去幾多の災害でもくり返され、ステレオタイプ化されてきた。被災地の子どもたちをニュースで見て痛感するのは、その復興エネルギーはこの子達のために使うことこそ「ガンバレニッポン」ではないだろうか。

乱暴で「無責任」のそしりを受けるが、2011年3月11日、福島原発水素爆発を期して、子どもたち（義務教育期間でもいい）はすべて無料の定期健康診断が受けられ、仮に何らかの放射能に関する健康

被害が現れた場合は、因果関係で争うことなく保障する、というところまで踏み込んだ復興メッセージを寄せられない大人たちはずるい。その保障年齢や制度など、それこそ有識者たちの出番だ。無責任に、いまの数値レベルで直ちに健康被害は無いだの言っている場合ではない。だって、子どもたちは、記者会見している大人より、この先、何十倍も生きるんだから。直ちにエイキョウ？ それは大人の身勝手な言い分だよ。

私たちは誰も悲しい体験や苦しいときには助け合う気持ち、持っている。その気持ちを義捐金や支援物資で現わす。でも、その後、どのように支援を配分するか。まちが機能しなくなったとき、配分する方法が難しいことが分かった。今度の選挙も伸ばしていいはず。順延すことで、復興についての候補者の考えが分かる。考え、提案を受けて、私たちが投票する。災害に強い町を作ります、って言われも投票できる？ 復興が始まったばかりのこの時期に。

いま、辛い暮らしの中で子どもたちの眼差しは復興の大人の姿に向けられている。これまでの価値にとらわれない、人間が制御可能な新しいエネルギーとまちづくりに力を合わせる姿になって欲しい、と言いたげな眼差しに思える。子どもたちに託し、さらに前進してもらえるに値する地域づくり。世界がうらやむ新たな価値と創造性豊かな暮らしのできるまち。復興がそんな進路を取れば、いいと思う。そのために、海外への援助の予算を何年間か凍結してもいいではないか。こんなときだもの、援助を受けてきた国だって快諾してくれるに違いない、と信じる。大人が大人による大人のための復興ではないはず。新しい価値観が生まれる復興に、と思う。

(H・O)

# 私たちの1票で新しい町政の流れを進めよう

## 4月4日の拡大会議報告

昨年10月に臨時総会を開催し、ネットの町議選対応を話し合いました(詳細は通信No.27にて報告)。内容は①ネット独自擁立の可能性がきわめて難しい②次の4年後を踏まえながら取組んでいく③ネットの考え方に近い候補者の推薦を模索。これら3点を確認しました。

今回は、これまでの経緯の整理とネットとしての具体的な町議選への対応を話し合いました。

## 結果、4月の町議選でのネット推薦の候補予定者は該当なしとしました。

臨時総会后、運営委員で某町議選候補予定の方と面談しましたが、積極的に推薦するまでに至りませんでした。理由は、現職議員との兼ね合い。次回、ネットが町議選に擁立した際、対応が難しいなどの面から、今回の町議選も推薦はなしと結論づけました。

同時に再度、ネットの候補擁立に向けた取組を進めることを確認しました。

まちネットの大きな目標は、2003年設立当初よりネットの議員を誕生させることでした。しかし、最初の挑戦から4年後の2007年、そして2011年と模索するも見送りを余儀なくされました。敗れようとも挑戦してネットの存在価値を示すという意義はあっても、実状はあまりにも力量不足。会員の疲弊感の増大は避けられない。私たちは、この8年間の評価をきちんとした中で、今後の真剣な取組の準備をしていかねばなりません。まちネット寄居の活動は「政治は決して特別なことではなく、町政は一番私たちの暮らしに密着した本来は誰でもきちんと向き合っていくべきこと。誰かにお任せでは

なく、一人一人が声をあげていこう」と身近な暮らしの課題を取り上げてきました。そして、議会や町長への請願、陳情、要望書などを挙げ続けてきました。しかし、そのこととネットの議員を議会へ送り出すことが必要不可欠として結びついていかない現状もありました。そして、何よりこの8年間、選挙への取組を最重点課題として戦略を練って来られなかった私たちの力量の問題があります。「もっと気楽に。参加することに意義がある。」といった考え方もありますが、それにかかる経費、時間、エネルギーは予想以上に大きくなってきました。前回の町議選、昨年の町長選の中で強烈に感じる地域地盤選挙の実態。地元代表、地元の利益誘導最優先、地縁、血縁がまだまだ最優先の現状です。**新しい選挙の形をネットが開発するには、次の機会を確実なものとしていかなければなりません。**この寄居町全体の方向性、福祉、教育、医療の充実、人権、平和、豊かな自然環境と安心して生活し

ていくための環境整備、そのための税金の使い方の優先順位を議論し決定していく。そんな議会の役割と住民参画をネットの視点で伝え続けていくことが重要です。この間、開かれた議会といいながら委員会傍聴も不可、内容ではなく力関係による議案の賛否など目に余る状況がありました。議会改革と議員の質を問うことも重要な課題です。地域のボスや、名誉欲の町議ではなくもっと真剣にこの町の将来を考え、そのための下地づくりを積極的に取組んでいく議員の創出が求められています。この視点を基盤として議会に働きかけていくこと、さらにネットに共感する、より多くの仲間づくりが必要です。

ネットの議員を誕生させていくための活動を、知恵を絞って分かり易い形で継続していくしかないと考えます。今回の選挙も会員個々の判断となりますが、ネットの姿勢として、地縁、血縁のしがらみにとらわれず、候補者の基本姿勢、政策を見て決めましょう。また新町長の政策路線を支持し、**新しい町政の流れを共に進められる候補者を選択していくことを呼びかけます。**

## 編集後記

### 町議選を前に3つの宣誓

宣誓! 私たち寄居町民は、4月24日町議選、投票を前に以下の3点に留意し正々堂々、公民権を行使します。今回の町議選は、そんな宣誓をするほど、スゴク大切な選挙だと思う。一つは新町長になって初めての議員選挙。つまり、町長の政策を冷静に審議できる議員を選べるか否か。議会の機能不全状態から回復できるか否か、の選挙。二つ目は、私たちが選挙への態度を変えられるか否か。地縁(地域の区割りで選んだり)血縁(親戚筋だから投票したり)社縁(会社から頼まれたり)から脱皮できるかどうかの選挙。三つ目は、地区役員が解決できる問題を議員が出張って、それが役割だと信じているような議員を仕分けできるか否か。じゃあ、何を基準に一票を!? ちょっと勇気、いるけど、立候補者のパンフレットをよ〜く読み、気になった点を直接聞いてみる。それと、告示された後街宣車で名前をお願いします、頑張っています、力をください、の連呼だけという候補者は要注意。近所の情報通の話も参考に。もちろんまちネットから聞き出すのが確実。ただいま受付中。(H・O)